

型試合規約（国際空手道連盟ルール・第11回全日本大会用）

1. 審判基準 審判員および審議委員は同等の権限をもって競技の審査に当たるが、競技に関する最終決定はすべて審判長の裁可による。旗判定は3名以上の審判員がどちらか一方の旗を掲げて行う。引分は無い。審判員はそれぞれに意義を申し立て協議する権利を有する。
2. 試合の区分 個人戦と団体戦を設ける。団体戦のチーム構成は3名とする。
3. 階級・型 (注1)小学生高学年団体戦：2名以内の小3以下を含む編成可 (注2)一般団体戦：2名以内の中学生を含む編成可

階級	予選型	決勝戦型
小1(男女混合)	平安Ⅰ	平安Ⅱ
小2(男女混合)	平安Ⅰ	平安Ⅱ
小3(男女混合)	平安Ⅱ	平安Ⅳ
小4(男女混合)	平安Ⅱ	平安Ⅳ
小5(男女別)	平安Ⅳ	平安Ⅴ
小6(男女別)	平安Ⅳ	平安Ⅴ
中学生(男女別)	撃砕小	最破
マスター女子(35歳以上)	突きの型	征遠鎮
シニア男子(50歳以上)	突きの型	征遠鎮
マスター男子(38歳以上50歳未満)	突きの型	征遠鎮
一般女子(高校以上35歳未満)	最破	観空
一般男子(高校以上38歳未満)	最破	観空
小学生低学年団体戦(小3以下)	平安Ⅲ	平安Ⅲ
小学生高学年団体戦(小4以上) *注1	平安Ⅲ	平安Ⅲ
中学生団体戦	撃砕小	撃砕小
一般団体戦(中学以上) *注2	突きの型	突きの型

4. 試合の方法

【個人戦】

- ①各階級予選指定型を単独で行う。2-3名の審判員が評価を行う。
- ②上位2名が決勝戦に進出する。(16名以上の階級は3位まで表彰) 同点の場合、演技構成点が高い方を勝者とする。演技構成点も同点の場合は、再試合により決着する。
- ③決勝戦は、各階級決勝指定型を単独で行う。3名以上の審判員による旗判定できる。引き分けは無い。

【団体戦】

- ①各階級予選指定型をチーム全員が同時に行う。開始と終了が同時である事以外は自由とする。開始位置、方向は定めないが、試合場(8x8m)内で行うものとする。鳴り物、音楽の使用を禁ずる。
- ②3名の審判員が評価を行う。上位2チームが決勝戦に進出する。(16チーム以上の階級は3位まで表彰) 同点の場合、演技構成点が高い方を勝者とする。演技構成点も同点の場合は、再試合により決着する。
- ③決勝戦は、各階級決勝指定型を行う。試合方法は予選と同様とし、3名以上の審判員による旗判定できる。引き分けは無い。

5. 着衣 選手は清潔な空手着を着用しゼッケンがある場合は背中中央に貼り付けること。袖、裾の折り返しを禁ずる。
6. 評価基準 技術点と演技構成点により、評価を行う。

技術点(50点満点)		演技構成点(50点満点)
基礎点(25点満点)	技術点(25点満点)	
体軸のぶれ(バランス)	極め技(重心の安定x加速度)	呼吸の出し入れ(気の吸収/充満/解放力)
予備動作(モーション)	軌道・止め(気合)	表現力・芸術性(動作の線・止めの気迫)
	目線	(団体戦) 上記 + 創造性・オリジナリティ

8. 失格 ①審判員の指示に従わず、悪質な試合態度とみなされたとき。判定時の「雄叫び」「ガッツポーズ」等礼節を欠いた態度を取った場合失格となります。
- ②出場時刻に遅れたり、出場しないとき。
- ③申告した型と異なる型を演技した時。演技を途中で中断した時。演技中に場外に出たとき。
9. その他 ①道場・流派・会派による細部動作等の相違や気合の箇所相違は評価基準の対象としません。
- ②判定に対する抗議は一切認めません。